

千刈狸の呟き

～もう一人のヒーロー～

野球狸

金農野球部の昨年夏の甲子園準優勝とその後の熱狂は凄かった。原動力だった吉田輝星投手は一躍脚光を浴び、その実力とスター性を買われプロ野球日本ハムに入団が決まった。プロは生存競争の厳しい世界だががんばってほしい。伸びのあるストレートで打者を三振に仕留める雄姿を早く見たい。

吉田投手の一挙手一投足がニュースに取り上げられるたびに、その一方で私にはある思いが頭をよぎる。それはかつて秋田で高校球児として活躍し将来を嘱望されたが、吉田投手の登場と入れ替わるように、昨年プロ野球界を去った若い投手のことである。知っている方もいると思うが、2年前にプロ野球セリーグ球団に6位指名で入団したK投手(30歳)だ。彼のことを少し述べたい。

K投手の野球人生はケガとの戦いでもあった。1軍で投げたのは中継ぎの2試合だけで、2年目の昨年は腰椎椎間板ヘルニアに悩まされ1軍に上がることもできなかった。K投手は、私事ながら息子と小学、中学の野球部でバッテリーを組んでいた関係で、彼の投手としての力量の高さを知っていたし、真摯に野球に取り組む姿に好感を抱いてきただけに戦力外通告、そして引退は残念だった。

ケガの始まりは高校2年の春だった。以下は彼の経歴としてほぼ公表されているものである。練習中に外野フライでチームメイトと交錯し衝突して膝を骨折した。その後の1年間を棒に振り、投手生命が危ぶまれた。今ならメジャーリーグ大谷選手の二刀流もあり、打者に転向というチャンスもあったかもしれないが、彼にとっては投手しか眼中になかったようだ。3年生の春に復活し、147km/hのスピードを出し注目された。

夏の県大会(甲子園予選)は順当に勝ち進んだが、準決勝の本荘高校戦で腰痛に襲われ大敗した。ちょうど金農の吉田投手が甲子園決勝戦で大阪桐蔭にメッタ打ちされた時と同じような負け方だった。あの時は、ボクシングでいえばだれかタオルを投げてくれ、という心境だった。骨折した膝をかばって腰を痛めたのだろうか、などと知人と話しながら、試合途中から降りだした雨に煙るこまち球場を後にしたのを覚えている。

ケガも癒え大学進学し、東京六大学リーグで野球をやることになった。1年目でベンチ入りし、公式試合800勝目の記念すべき勝利投手になった。「これはいけるぞ」と大いに期待したものだが、またもやケガに悩まされた。今度は肘だった。手術を受けたが調子は今一つで、その後大学では勝つことができなかった。

大卒後は社会人野球でプロを目指した。プロ野球スカウトのメガネにかなうのは一部のエリートであり、誘いはなかなか来なかった。ところが巨人の入団テストを受け合格した。そのときの遠投は110mだったという。ホームベースから投げると外野スタンドに入る、つまりホームランになる飛距離だ。こんな状態を私は見たことがなく想像もできない。しかし、合格はしたもののドラフトにかからず入団できなかった。プロになる選手の層の厚さ、競争の激しさが知れる。

次に彼がとった行動は、社会人野球をやめて渡米し、米国の独立リーグのチームに入って研鑽を積むことだった。野球の報酬だけでは生活できず、ホームステイしていたそうだ。最近の米国社会はアメリカファーストで不寛容がはびこっている印象を受けるが、異国の野球選手を家庭に受け入れている現実、まだまだ寛大な心と経済的余裕があるということだろう。

帰国して福島県の軟式野球チームに所属した。これは大きな決断だったに違いない。なぜ軟式だったかといえば、全国優勝投手レベルになればプロ野球関係者も注視するからとのこと。実際、軟式野球からプロに入り活躍した投手もいる。硬式から軟式への変更にあたっては、ボールそのものに適応できるかという問題、硬式というプライドを捨てられるかという問題があり、かなり悩んだはずだ。

結果的にはチームメイトに恵まれ、全国準優勝のエースピッチャーとして注目された。全国準優勝というところは金農の吉田投手と共通している。これによってセリーグの球団から指名され、ついに念願のプロ野球選手になった。一軍で初めて投げた日のスポーツ番組の「熱盛」というコーナーで彼が取り上げられたときは「ついにやったな」と胸がいっぱいになった。しかしその後は冒頭で述べた通りである。

新年が明け、日ハムの2軍練習場では吉田投手の期待度は高く、今やマスコミの寵児となった感がある。惑わず野球に集中しその素質を十分開花させ活躍してほしい。長い人生では光があたることもあれば影になることもある。K投手は自らの強い意志と努力でプロ野球への道を切り開いたが、ケガに泣き早期引退を余儀なくされた。プロでは満足できる結果を出してはいないが、それまでの投手として輝いていた時期やその生き方を近くで見てきた私たちにとって、K投手はヒーローである。野球人としての彼を忘れることはないだろう。